

2011年度の研修会は11月26日に全日程を終了しました。

全4回の延べ参加者（一般参加者も含む）は120余名に達しました。講師の先生方の実践的な講義内容や魅力あふれるトークに導かれ、参加者も熱く討議し学び合いました。

第4回（11月26日）の大震災をテーマにしたパネル・ディスカッションでは、3名のパネリストから外国人の立場としての震災経験や提言が話されましたが、日本人にとっても大きな衝撃であったことは変わりません。参加者の一人、横沢なお子さんが大震災に寄せる思いを綴りました。

また、第3回と第4回の研修会記録を掲載しています。

（事務局 稲谷）



第3回の講師は友松悦子先生です。多くの留学生を指導された経験を基に、中・上級レベルの学習者を対象とする指導法を、実例を交えて紹介していただきました。参加者はグループになって話し合いながら、課題に取り組みました。



第4回の参加者は、全4回で最多の32名、熱心にパネリストの話に聞き入りました。ディスカッション終了後は椅子を丸く並べ膝つき合わせ、自己紹介や講師への質問など、自由なテーマで話し合いました。会員からは「3.11」を福島や仙台で被災した生々しい体験も飛び出し、心に染みる時間を共有できました。



パネリストは左からシーラ・バーガンさん（アメリカ）、アレクシス・パチェコさん（チリ）、陳秀錦さん（台湾）。そして司会を担当した長阪会長です。

パチェコさんと陳さんは日本での生活が長く、日頃の付き合いの大切さを訴えられました。バーガンさんは通訳付きで、震災時に感じた周囲の人々の暖かさ、また情報入手方法など興味深いお話を伺うことができました。